

事例16

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代の患者。BMI 29.1 kg/m²。
- ・ 約 2 年の病歴を有する持続性心房細動に対し、クライオバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 酸素投与を開始し、鎮静薬を投与した。クライオバルーンシースにマッピングカテーテルを挿入したところ、シース内に空気が引き込まれ、心電図でST上昇を認めた。冠動脈造影で冠動脈に空気塞栓を認め、経皮的冠動脈形成術を実施した。
- ・ 頭部MRI・CT検査で右大脳に広範囲の空気塞栓を認め、開頭減圧術を実施したが、治療7日後に死亡した。
- ・ 死因は、空気塞栓。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。